

国際協力の現場を語る

JICA(ジャイカ:国際協力機構)は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア(40歳~69歳)を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違った貴重な体験をしてくれています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日時:毎月第3水曜日 15時30分~17時

会場:JICA横浜 1階会議室または4階セミナールームなど

会費:無料(どなたでも自由に参加出来ます)

主催:NPO法人「シニアボランティア経験を活かす会」

後援:JICA横浜

(やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア

経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい。

台風等により中止となった場合は、中止された発表講演は翌月の第1水曜日の

15:30~17:00に延期します。)

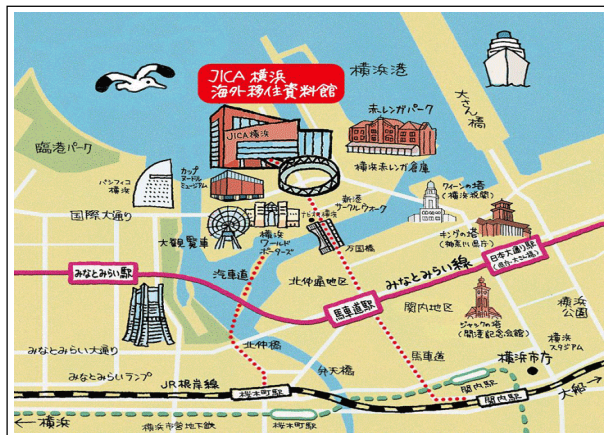
問合せ先:横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜3階 国際協力連絡室内

シニアボランティア経験を活かす会 水曜会

Fax:045-663-3263 担当:森岡 潔(046-849-9938)

URL jicasvob.com

E-mail info@jicasvob.com



赴任国(講師名)	「タイトル」	講演概要
第151回 4月18日 (水) ガーナ (榎本良弘)		「ガーナで360名の生徒とともに勉強してきました」 西アフリカ・ガーナ、ボルタ州ホという町にある「ホ・ポリテクニク」という学校に赴任し、その学校の電気電子工学科にて電子回路実習を担当しました。3学年合計360名の生徒を対象に、プログラミング、PLCプログラミング、電子回路シミュレーション等を指導してきました。実習用機器や部品がない中、いろいろな工夫をして入手。生徒一人一人のやる気を引き出すことを目標として活動を行いました。
第152回 5月16日 (水) キルギス (広井暁之介)		「遊牧民の国キルギスで子供達と和太鼓を楽しむ」 中央アジアの山岳地帯で今も多くの人々が遊牧生活を送る国キルギス。そのキルギスの地方都市、標高2000mの街ナリンでは、小学生から高校生まで約40人の子供達が日本語と日本文化を勉強しています。日本文化の一つとして子供達に和太鼓の演奏を教えてきました。ほとんどの子供が和太鼓初体験。キラキラと目を輝かせながら太鼓の練習に励みました。キルギス人のリズム感のベースなど、興味深い話を聞くことも出来ました。
第153回 6月20日 (水) パラグアイ (関憲三郎)		「パラグアイ産業界への人材育成レベル向上のために私が取った方策」 要請は国立職業訓練短期大学の電子科における教育レベル向上のための支援でした。研究を行うことによって教員のレベルアップを図るため、研究室を新たに確保して、太陽追尾装置、スマートハウス用器材、半自律移動電動車椅子など教材製作を兼ねたテーマを考えました。特許を申請できたり、現地のマスコミで報道される等、学生達も研究活動にあこがれて入って来るようになりました。
第154回 7月18日 (水) トルコ (小山季廣)		「トルコの日本庭園の維持管理指導」 トルコ中央部のアナトリア高原のカマン市郊外において、24年前に建設された日本庭園が、経年とともに当初構想されたものと変化してきたため、当初構想された庭園の姿に近づけるとともに、そこで働くトルコ人に庭園管理の維持手法の技術指導を行いました。
第155回 8月15日 (水) メキシコ (岡田 洋)		「メキシコでの5S/カイゼン実践教育活動の紹介と生活して感じたこと」 メキシコの中央高原地帯にあるサン・ファン・デル・リオの工科大学で品質や生産性を向上するための指導を、学生や地元の中小企業に実施しました。特に力を入れて行った模擬教材等を使用した5S/カイゼンの実践教育普及活動の様子を紹介し、また、日本とメキシコの親善を図るために行った国際交流イベントについても報告します。